

ほたるの里だより

八千代市ほたるの里づくり実行委員会 第79号 2026年3月



ほたるの里の生き物（春）



- ① ツマキチョウ ② タネツケバナ ③ アズマヒキガエル
④ ニホンアカガエル ⑤ アメンボ ⑥ カワニナ

※この里だよりは 令和7年度 ちば環境再生基金助成金（県民の活動）を頂き作成しました。

おやこ生き物探検隊～トンボ池の中を見てみよう～ 報告

日時：2025年11月8日（土）11：00～12：00

場所：ほたるの里 参加者：13人（5家族）

ホタルメイト 塚本 聖子

この日は、トンボ池の大掃除「かいぼり」の日でした。朝早くから水を止めて排水し、ホタルメイトたちでトンボ池の底にたまった泥を取り除きました。いつもは水や泥に隠れている生き物たちは、作業の中で見つけ出し、たらいに避難させておきました。そんな生き物たちの観察会でした。

初めに、どんな生き物がいるか予想したり、講師からメダカとカダヤシの見分け方を聞いたりしました。そしていよいよ、たらいの中の生き物たちを、小さな網ですくって、観察ケースの中に移します。その時の注意として、「素手で触ると生き物にとって熱すぎて、やけどをするのと同じになる」というのがとても印象に残りました。

張り切った子どもたちに次々とすくい出されたのは、ミズカマキリ、シマアメンボ、カダヤシ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ミナミヌマエビ、スジエビ、ウシガエルのオタマジャクシなど。観察ケースの中の

生き物たちを、子どもたちは楽しそうにじっくり観察していました。

観察し終えた生き物たちをたらいに戻した後は、ほたるの里を一回りして観察しました。イナゴ（コバネイナゴ・ツチイナゴ）、クビキリギリスなどのバッタ類、今年豊作のクヌギの実などを観察して11月の里を感じていました。

また、帰りに講師からススキとオギの穂の違いを教えてもらい、里にある穂の出ている植物を、多くの親子が確認しながら帰っていきました。今までススキだと思っていたものが違っていたかも。大人も学びの多い観察会でした。



おやこ生き物探検隊（冬）～冬の生き物 何がいるのか探してみよう～ 報告

日時：2026年2月14日（土）10：00～11：30

場所：ほたるの里 参加者：17人（2家族+ホタルメイト）

ホタルメイト 奥山 喜彦

生き物たちが深く眠りにつく厳冬の里で「おやこ生き物探検隊」を実施しました。今回のアイテムは、9つのミッションが並ぶビンゴ形式のワークシート。モグラ塚や木の芽生え、昆虫の卵などを探して里を歩く、参加型の企画です。

当日は親子2組と、子どもは少人数でしたが、熱量はとても高く、冬の池を網で「ガサガサ」と探る姿は真剣そのもの。スタッフも「教える側も楽しさを知らないと伝えられない」という山崎講師の言葉に背中を押され、全員が当事者として宝探しに没頭しました。

冷たい池からはミナミヌマエビやアメンボが姿を現しましたが、一方で、何者かの捕食により損傷したカメの亡骸も発見されました。冬を越す命の力強さと、逃れられない自然の厳しさを同時に突きつけられる、まさに「生と死」の最前線でした。

今回のハイライトは、私が参加者に「ザリガニを

見つけたら教えて、食べるから」と声をかけた場面です。自作の料理写真を見せると、子どもは「うまそう！」と目を輝かせ、お父さんは「これなら（反対派の）ママを説得できるかも」と笑う。それは、外来種という難しい問題を、身近な「食」という窓口から楽しく考えるきっかけになりました。

講師の深い知識と、子どもたちが里で見せる真っ直ぐな発見。これら多様な視点が重なり合うことで、ビオトープはただの観察場所ではなく、誰もが自分なりの楽しみを見つけられる豊かな空間になります。この日感じた驚きや笑顔が、この里を大切に守り、次世代に繋いでいきたいという想いの種になればと願っています。



船橋でホタルの観察を始めてみて気がついたこと

船橋ほたる観察会 代表 安齋 朗

2018年、船橋市北部にホタルがいると聞き、探しにいったのが、活動の始まりです。聞いた場所を探してみると、ほんとにホタルがいました。でも、見つけたのはほんの数匹。いついなくなってもおかしくない状態でした。

ホタルの光を市内から絶やしたくないと思い、他にはいないのか、過去の文献をみたり、情報をきいてまわったりしながら、少しずつ生息地を確認していきました。5年かけて市内を調べ、8河川24カ所で確認できました。

それからホタルが飛翔する時期を調べるため、6月から生息候補地を毎週一回夜間観察しました。市内8河川24カ所を一晩では回れないので、週3～4回、1日に4～8カ所程度を2～3時間かけて調査します。とても大変ですが、調査の結果、船橋市のホタルは6月第1週頃から発生を始め、9月初旬までおよそ3カ月光ること。生息地や年によって

発生のリズムが違うことなどがわかりました。

観察以外にも、生息環境調査、ゴミ拾い、草刈り、観察路整備などを行っています。

また、多くの方の協力を得て、県北西部7市21地点のホタルのDNAを解析しヘイケボタルの類縁関係を調べました。八千代のヘイケボタルもサンプルのご提供、ありがとうございました。

活動を通じ感じたのは、ホタルは力強く、そして美しく生息していること。人の定めた行政区とは関係なく、ホタルは市を超えて繋がっていること。そしてホタルはその地域の多くの生物と繋がっていること。ホタルを愛し、ホタルと共に暮らすことは、多くの自然、多くの生物、多くの人々と繋がるということです。これからも皆様と繋がり、共に自然や生物と共に暮らしていけるよう努力していきたいと思えます。



生息地の環境整備（ゴミ拾い）



生息環境調査（日中の調査）



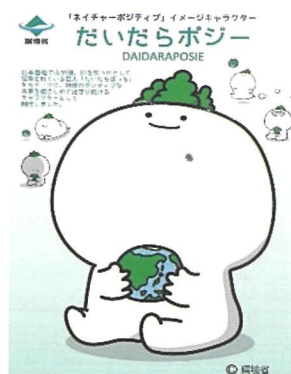
生息環境調査（日中の調査）

ネイチャーポジティブ・30by30ってなに？

広報部

「ネイチャーポジティブ」は、生物多様性の損失を止めて回復させ、私たちの暮らしや社会経済を持続可能としていくために重要な考え方です。

「30by30」は、2030年までに、陸と海のそれぞれ30%以上を自然環境の保全区域として守ることを目指しています。近年、森林の減少や海の環境悪化などにより、多くの生き物がすみかを失っています。自然の豊かさが失われることは、私たちの暮らしや健康にも影響します。



この取り組みは、自然を守るだけでなく、人と自然が共に生きる社会をつくるための大切な一歩です。私たち一人ひとりが自然に目を向けることが、持続可能な未来につながります。

八千代市ほたるの里づくり実行委員会は、少しでもこの取り組みにつながるよう活動を推進します。



（11月）トンボ池かいぼり



（11月）トンボ池かいぼり



（落ち葉のプール）



（1月）笹の駆除



（2月）作業の後におやこ生き物探検隊参加

里からのお知らせ・・・

◆市民活動フェスティバル（10月19日）・ボランティアカフェ（2月28日）ほたるの里出展

◆里山整備ボランティア人材育成講座（里山楽校）を開催しました。主催：八千代市

開催日：令和7年10月25日、11月15日、12月6日、12月13日、令和8年1月17日

（いずれも土曜日） 参加者：8名

内 容：平成23年度から続く「里山楽校」は、今年度で15回目を迎えました。本講座は10月から1月にかけて全5回開催し、里山に関する講義やチェーンソー・刈払機の実習（安全講習）など、実践的なスキルの習得を行いました。環境政策課では、里山楽校の卒業生と共に、八千代市の貴重な里山を次世代へつないでいくことを目指しています。

◆ほたるの里づくり実行委員会 第29回総会案内

日 時：2026年4月11日（土）10：00～12：00

会 場：八千代市市民会館 第5会議室（2階）（八千代市萱田町728）

内 容：令和7年度事業報告・収支決算
令和8年度事業計画・予算案

参加対象：ホタルメイト ほたるの里に関心のある方

※総会終了後、里だより表紙絵の森 繁さんから絵と生き物についてお話をお聞きします。

〔編集後記〕

2026年も3月になりました。今年もほたるの里の活動へのご支援・ご協力よろしくお願いいたします。

冬のほたるの里は木々の葉が落ち、青空とコントラストも素敵な空間となります。これからは、草木の芽生え、生き物の活動と賑やかになります。ほたるの里で体験してみませんか？
（広報部）

〔ほたるの里 連絡先〕

八千代市ほたるの里づくり実行委員会事務局

〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5

八千代市 環境政策課 ゼロカーボンシティ推進室内

Tel：047-421-6767

E-mail：kankyou1@city.yachiyo.chiba.jp

HP：https://www.city.yachiyo.lg.jp/soshiki/40/3728.html

【編集】広報部会・事務局